

地域包括ケアシステム構築の進化に向けて

～川崎らしい多様な主体が連携した都市型の地域包括ケアシステムの構築～

高齢化のさらなる進展、つながりの希薄化、担い手不足など様々な課題に対応していくとともに、デジタル化の進展などを踏まえながら、「自助・互助・共助・公助」の組み合わせにより、ケアに関わる資源を充実し、川崎らしい多様な主体が連携した都市型の地域包括ケアシステム構築による、誰もが住み慣れた地域や自らが望む場で安心して暮らし続けることができる地域に向けた取組を進化させていきます。

川崎市健康福祉局地域包括ケア推進室

目次

- 1 少子高齢化の進展等に対応した地域包括ケアシステムの進化
- 2 社会のトレンドを踏まえたケアに関わる様々な資源の最適化
- 3 川崎市における民間事業者等を含む多様な主体との連携を促進させる取組

【参考1】川崎市内の民間事業者と地域団体等が連携した取組事例

【参考2】市内での各サービス領域における取組事例の見える化

【参考3】民間連携検討の4つの軸(企業活動との連携を踏まえ見えてきた視点)

【参考4】具体事案のインタビューによる掘り下げによる新たな連携事案組成の促進

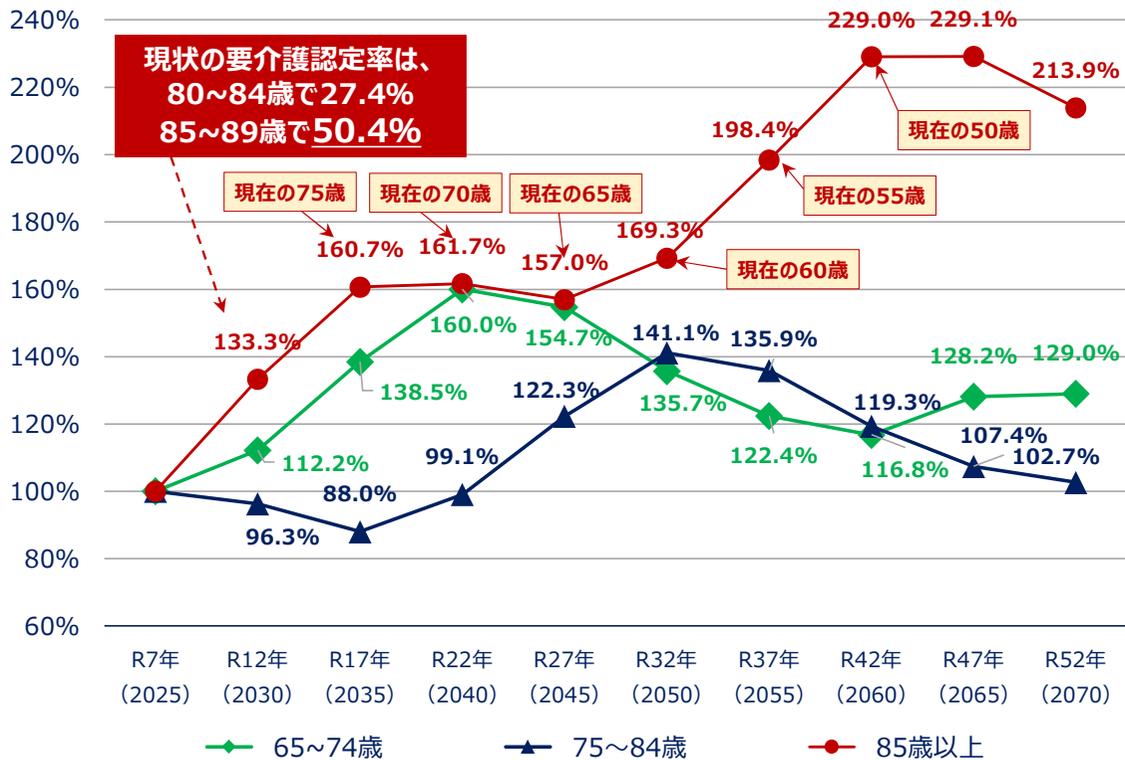
資料 川崎市における都市型の地域包括ケアシステム構築の基本理念と5つの基本的な視点

【視点1:ケアの理解と実践】	地域における「ケア」への理解の共有とセルフケア意識の醸成
【視点2:住みやすいまちづくり】	安心して暮らせる「住まいと住まい方」の実現
【視点3:多様な主体の連携によるケア】	多様な主体の活躍による、よりよいケアの実現
【視点4:専門多職種連携によるケア】	多職種が連携した一体的なケアの提供による、自立した生活と尊厳の保持の実現
【視点5:地域マネジメント】	地域全体における目標の共有と地域包括ケアをマネジメントする仕組みの構築

1 少子高齢化の進展等に対応した地域包括ケアシステムの進化

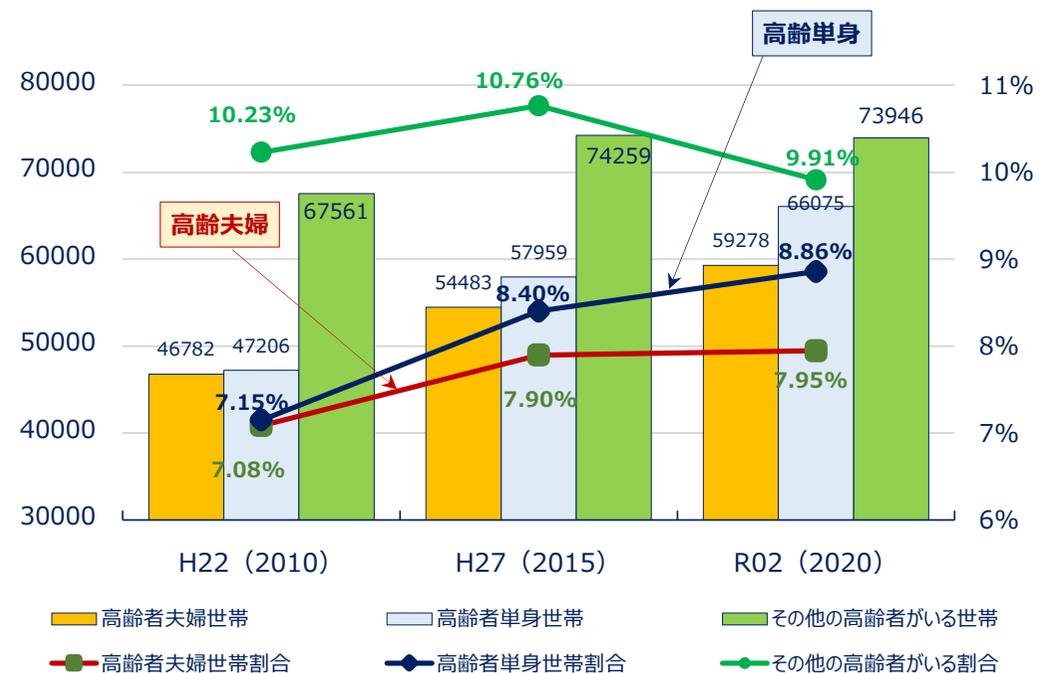
さらなる「少子高齢化」、医療・介護・福祉分野における「担い手不足」、85歳以上高齢者の増による「医療・介護需要」の増加、「認知症の方」や「頼りになる身寄りのいない高齢者」が増加する社会の到来を見据え、本人の望む暮らしを最期まで支えられるよう生活に関わる様々な分野の取組を組み合わせるとともに、備えを含む「①予防的視点を重視した取組」、日常のつながりづくりから適切な支援にもつなげられる「②つながりづくりに関する取組」、これらを推進する「③民間事業者等を含む多様な主体と連携した取組」を重点的に進めます。

川崎市の高齢者年齢区分別増減推移



資料：川崎市総合計画改定に向けた将来人口推計（令和7（2025）年5月）から作成

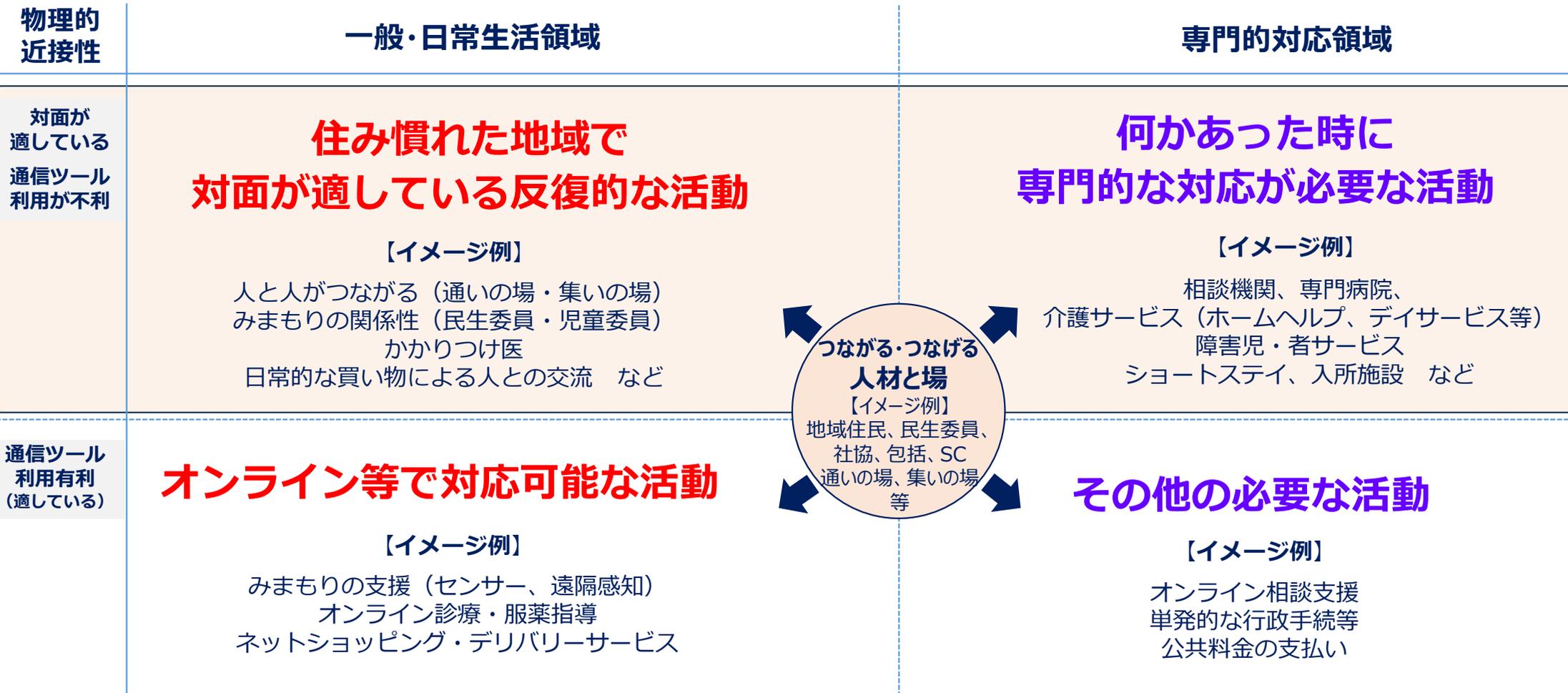
川崎市の高齢者世帯の状況



資料：国勢調査から作成

2 社会のトレンドを踏まえたケアに関わる様々な資源の最適化

日常生活を送るために**必要なケア（医療・介護領域のみならず、日常生活領域を含む）**に関わる**様々な資源**について、現状と課題の見える化を進め、デジタル化など社会のトレンドを踏まえながら、全市的な対応と身近な地域ごとの対応を組み合わせることで最適化を進めます。



3 川崎市における民間事業者等を含む多様な主体との連携を促進させる取組

取組の考え方

行政、企業、団体等から構成される「地域包括ケアシステム連絡協議会」のプラットフォームを活かし、民間活用を含めた多様な主体との連携により、自立支援・生活支援領域における身近な暮らしを支える持続的な活動を創出する取組を進めます。

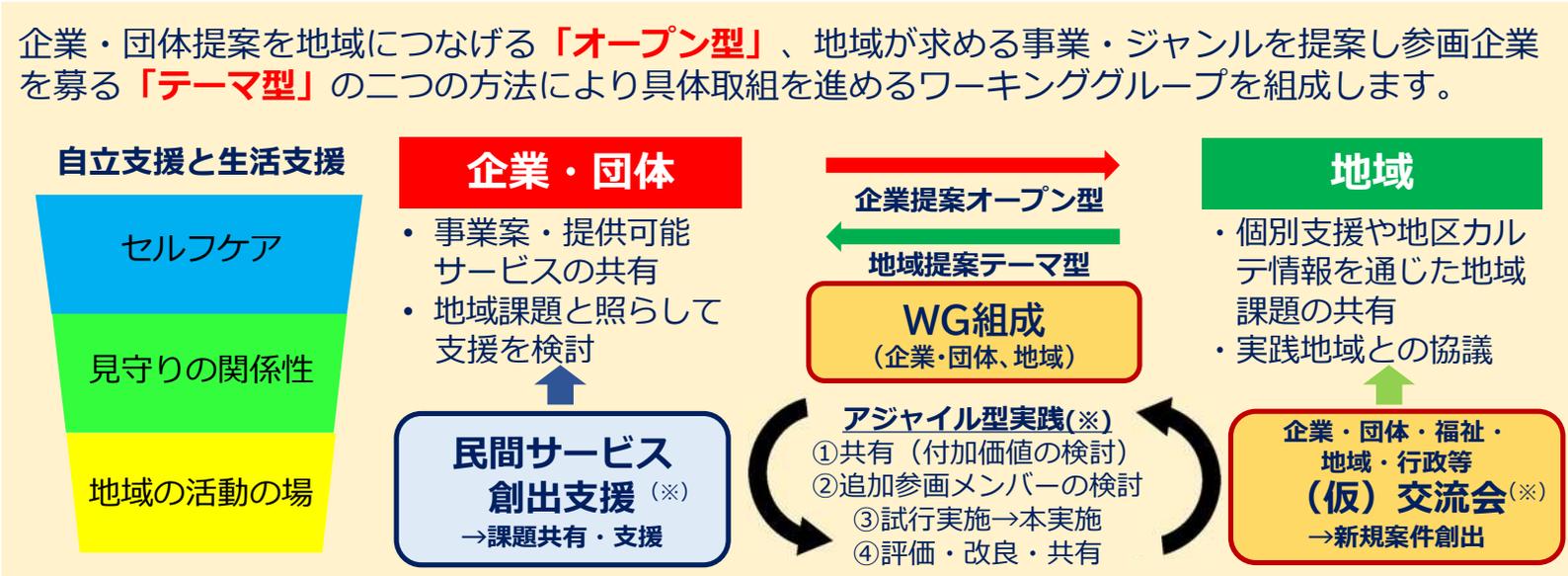
【重点連携領域】 (高齢期のサービスを重点的に取り組む)

- I 予防・自立支援
- II 参加と活躍によるつながり
- III 日常の暮らしの支え

(※) 企業の取組の広報とブランディング化を検討

【提供可能な支援メニュー】

- 1 高齢者ニーズ・特性の共有
- 2 行政データの提供
- 3 関係者調整
- 4 協業先マッチング
- 5 広報支援
- 6 事業関連イベント等への後援



(※) 民間サービス創出支援：直接には地域と協議をするものではないが、サービス創出により高齢者の暮らしや医療・介護・福祉領域の資源確保につながる案件。
 (※) 交流会：企業・団体・福祉・地域・行政の関係者がテーマを設定して参加し、対話と交流を通じて新たな案件を創出することを狙います。
 (※) アジャイル：より良い形になるよう、実践と改善を繰り返しながら取組を進めること。

地域包括ケアシステム連絡協議会

- ・ 民間活用を含む多様な主体と連携した取組創出に向けた意見交換
- ・ 多様な主体による顔の見える関係づくり、勉強会（取組事案創出に向けた情報共有）等

参画企業・団体数

131

R8.2.13現在

【参考1】川崎市内の民間事業者と地域団体等が連携した取組事例

「地域包括ケアシステム連絡協議会」のプラットフォームにおいて行政が間に入って地域住民・団体、民間企業、企業とが連携した取組のほか、予防やつながり、生活支援の領域での事業者・団体間の連携・共創による新たな取組が地域の中で生まれています。

スポーツ×健康相談

スポーツジムでの出張保健相談



スポーツクラブ等と麻生区役所が連携したあさおの保健室

麻生区内6カ所のスポーツクラブ等で自分の健康状態のチェックと結果に合わせた個別のアドバイスを管理栄養士・保健師から受けることができるイベントを実施。

移動販売×つながり

地域でのつながりづくり



マルエツ様による移動販売と連携したつながりづくり

地域住民から構成される地区社協が移動販売事業者と連携し、買い物による集いの場をつくり、弁当の購入等により移動販売時にあわせて会食会を実施。

空きスペース×地域の居場所

地域の居場所づくり



生活協同組合パルシステム神奈川麻生センター様による地域の居場所づくり

配送センターの空きスペースを活用し、区や地域包括支援センター、地域住民等と連携して、それぞれができることを持ち寄り、つながり、支え合う地域の居場所づくりを定期的開催。

金融機関×備え（資産管理）

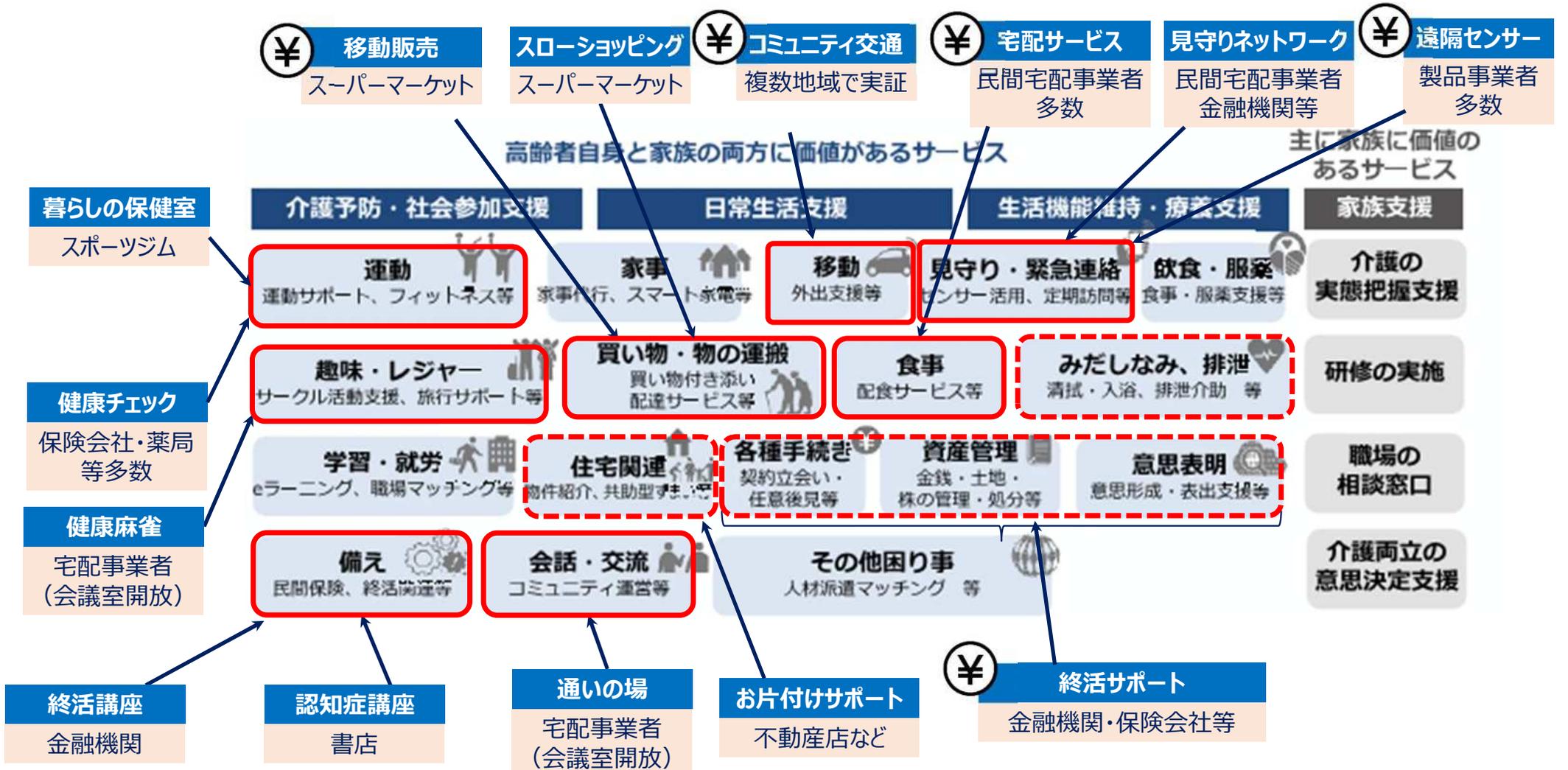
高齢期の資産管理



川崎信用金庫様による老人クラブ向けの資産管理講座

高齢期における資産管理に関する課題に対する備えの必要性を地域の方々に知っていただくため、川崎信用金庫が地域の老人クラブ向けに講座を開催。

【参考2】市内での各サービス領域における取組事例の見える化



※サービス分類は経済産業省「高齢者・介護関連サービス産業振興に関する戦略検討会取りまとめ」資料抜粋

【参考3】民間連携検討の4つの軸 (企業活動との連携を踏まえ見えてきた視点)

A 何を【目指す価値】

- ①公共価値創出／②顧客獲得・ブランド価値向上／
③新しい市場創出（終活・DX・シニア就労等）

B どこで【提供フィールド】

- ①身近な生活圏域展開（地域密着・圏域別）／
②地域限定なし（横断型）／③オンライン

C 誰と【連携形態】

- ①自社単独／②企業間連携／
③自治体・地域団体・包括・専門職連携

D : どのように【自社資源の活用手法】

- ①既存事業延長／②事業プロセス再構成／
③新規領域への参入

分類	主な事例	A : 何を			B : どこで			C : 誰と			D : どのように		
		①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③
運動	スポーツジムでの自治体と連携したの暮らしの保健室、地域での健康づくり企画	○	○		○					○	○		
買い物	スーパーでの移動販売の実施（地域の接点づくり）	○	○		○			○		○		○	
買い物	スーパーでの認知症の人も買い物しやすい環境づくり	○	○		○						○		
備え	金融機関での終活期における資産管理講座	○			○		○	○	○	○	○		
買い物	宅配事業者の高齢者見守り	○			○					○	○		
会話・交流	配送事業所や書店での空きスペースを活用した居場所づくり・講座活用	○	○		○					○	○		
資産管理	金融機関と高齢者相談窓口（包括等）での情報共有のあり方の共有	○			○	○	○			○	○		
資産管理	終活期の手続きサービス開発・市民向け周知（相談）			○		○	○	○		○			○
認知症	認知症当事者の意見を取り入れた製品・サービス改良（モニター協力）	○	○			○		○		○	○		

※本資料は、民間連携を促進するにあたって、各企業の皆様と協議経過を踏まえた川崎市による分析資料であって、各企業の見方とは異なる場合があります。

【参考4】具体事案のインタビューによる掘り下げによる新たな連携事案組成の促進

Report2 生活協同組合バルシステム神奈川 (麻生センター)の取組

空きスペースを活用して地域の人が気軽に集い、つながり、支え合う
地域の様々な人ができることを持ち寄り、みんなで育てるあたたかな居場所づくりの取組

取組の概要

- 「みんなでゆっくり CAFE」と「ゆっくり健康麻雀」を、それぞれ月1回開催(生活協同組合への加入不問)。
- 麻生センターを始め、区役所や地域包括支援センター、生活支援コーディネーター、ボランティアなど、様々な人ができることを持ち寄り、運営している。



責任より多い健康麻雀

解決したい課題

- 地域課題として色々なものが取り上げられている中、組合員の生活をよくするには地域も良くする必要があります。

実現したい未来

- 高齢者も子育て世代も気軽に集まり、多世代で交流できる居場所を地域に広げる。
- 居場所に来れなくなった人を支援者につなげる仕組みをつくる。

INTERVIEW

1. 始まりのきっかけ
バルシステムでの認知症サポーター養成講座の開催をきっかけとした地域との接点からでした。複数回講座を開催している中で、空いている会議室で居場所づくりを始めたいと提案しまして、区役所の認知症地域支援推進員の方や地域包括支援センター、生活支援コーディネーターの方々などからアドバイスをいただきました。「認知症カフェ」とか敷居が高く感じる人もいるそうで、誰もが気軽に立ち寄れるよう「みんなでゆっくりカフェ」と名付けました。

2. 取組への思い
組合員の生活を良くするには、地域全体が良くならなければならないと考えています。この場で営業はせず、バルシステムは地域の人に楽しんでもらう箱と考えています。運営には、区役所や地域の支援者、ボランティアなど、様々な人に関わっていただいています。できる限り多職種で作ることを目標に、それぞれができることを持ち寄り、毎回いろいろな企画を考えています。組合員でなくても参加可能で、広報もお手伝いいただいているの方々を通じて行って、参加者の多くは非組合員です。

3. 取組をしていくうえでのメリット
この場を通じて、日頃接する機会のない方たちから地域の課題を聞くこともできます。その課題とバルシステムが取り組んでいる事業や活動をどうリンクさせて新しい事業をつくるか。これもこの場を開く大きなメリットだと感じています。

4. 今後、進めていきたいこと
今も、気になる方がいれば地域包括支援センターの方に情報は共有していますが、ここに来れなくなった人を次の支援につなげる仕組みをどうつくれるかということが一つです。
もう一つは、高齢者も子育て世代も気軽に集まり、多世代が交流できる場をつくることです。大学生にもこの居場所に参加してもらって地域に根差した活動をしていることを知ってもらいたいと思っています。高齢者が地域の歴史を語り、若い世代が耳を傾けることで、その土地に愛着がわいて、地域に貢献する人が増えていったらいいと思っています。

※しず
●三井 俊成 さん (バルシステム神奈川総務課 企画課長)
●神田 賢一 さん (バルシステム神奈川麻生センター センター員)

①取組企業名

②取組の特徴 (リード文)

③取組概要と活動写真

ここだけ見れば何をしているかわかるように表現

④解決したい課題

どのようなことに課題感を持って活動を始めたのか端的に表現

⑤実現したい未来

この活動を通じてどのような未来を実現したいと思って継続しているのかを端的に表現

⑥インタビュー内容

どのようなきっかけから始めたのか、どのような経過で現在に至っているのか、企業活動としてのメリットなどを表現

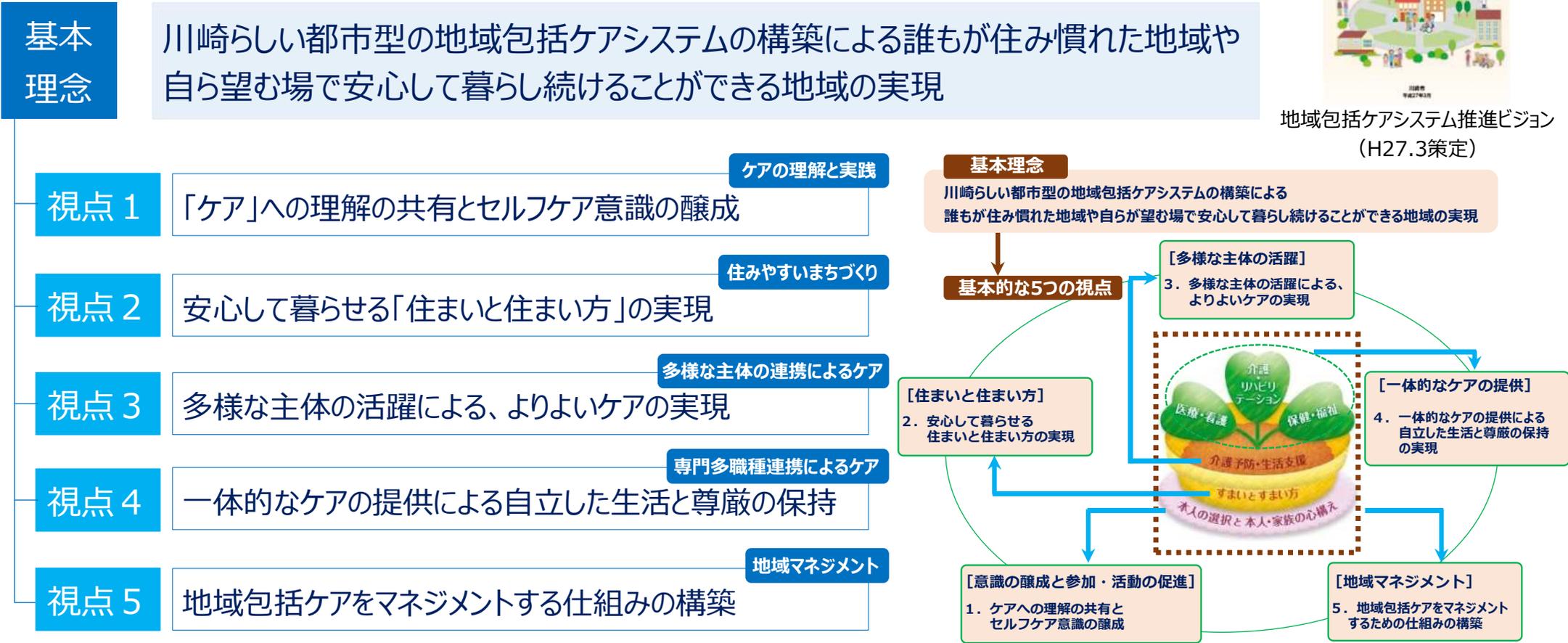
資料 川崎市における都市型の地域包括ケアシステム構築の基本理念と5つの基本的な視点

川崎市地域包括ケアシステム推進ビジョンの策定（H27.3）

① 基本理念と5つの基本的な視点



地域包括ケアシステム推進ビジョン
(H27.3策定)



【視点1】地域における「ケア」への理解の共有とセルフケア意識の醸成

取組の考え方

元気な人の健康を保つという取組に加えて、虚弱傾向にある人や支援が必要となってきた人にも、**元気な暮らしと自信を取り戻すことを目指す意識**や、**多様な資源を活用しながら自分らしく生活する意識**を高めていく取組と実践を積み重ねていく。

主な取組

介護予防・重度化防止

(健康福祉局)



健幸UP!!プログラム (初期面談の様子)

地域の担い手づくりや地域活動支援、フレイル予防の普及啓発を進めるとともに、虚弱、要支援高齢者等への初期支援の選択肢を充実させ、介護予防・自立支援に資する支援体制を構築する。

新しい認知症観

(健康福祉局)



認知症本人・家族の外出イベント
「緑化フェア×花壇づくり」

認知症の人の声を尊重し、新たな認知症観の理解、認知症の人の意思の尊重、認知症の人・家族等の地域での安心な暮らし、新たな知見や技術の活用に向けた各取組を進める。

地域リハビリテーション

(健康福祉局)



補装具相談の様子

病気や障害があっても住み慣れた地域で暮らし続けられるようにするため、リハビリテーション専門職等により、生活に必要な動作や活動、就労や社会参加等の各場面でできることを増やしていく支援を行う。

健康づくり

(健康福祉局)



健康ウォーキング (麻生区)

各世代の生活環境や健康に関するデータを分析し、活動・運動の習慣化、休養やこころの健康の保持、禁煙や適正飲酒など、市民の自発的な健康づくり・習慣化の促進に向け、多様な主体と連携した普及啓発を進める。

【視点2】安心して暮らせる「住まいと住まい方」の実現

取組の考え方

住宅確保要配慮者等への**居住支援**や**継続居住**、地域バランスを考慮した**介護サービスの基盤確保**や、**交通手段の選択肢**を広げる取組を進め、住み慣れた地域で安心して**暮らし続けることのできる住まいと住まい方**の実現に向けた取組を進めます。

主な取組

住宅確保要配慮者等への居住支援

(まちづくり局)



すまいの相談窓口
(住まい・住み替え相談/空き家相談)

高齢化の進行等により増加が見込まれる住宅確保要配慮者の安定居住を図るため、多様な居住ニーズへの対応、民間賃貸住宅を活用した住宅確保要配慮者に対する居住支援などを進める。

住宅改修・福祉用具

(健康福祉局)



福祉用具のイメージ

住み慣れた自宅ですでにできる限り長く継続して居住できるように、居住ニーズを踏まえ、住宅改修や福祉用具など、住宅の良質化の支援を進める。

介護サービスの基盤確保

(健康福祉局)



地域密着型サービス

介護ニーズの見込み等を適切に捉え、地域バランスを考慮しながら、介護保険施設や地域密着型サービス等の整備を進める。

地域交通・コミュニティ交通

(まちづくり局)



コミュニティバス山ゆり号 (麻生区)

地域公共交通計画に基づき、行政や交通事業者等が参画する地域公共交通活性化協議会での協議を実施しながら、社会環境の変化に適應した地域公共交通ネットワークの形成に向けた取組を進める。

【視点3】多様な主体の活躍による、よりよいケアの実現

取組の考え方

地域における支え合いの基盤となってきた地縁・血縁・社縁といったつながりなどの変化に対応するため、地域での取組支援に加え、企業・団体・地域等の**多様な主体との連携**により、**予防、つながり、日常生活支援**など**様々なケア資源の充実**に向けた取組を進めます。

主な取組

高齢者のつながりづくり

(健康福祉局)



一人暮らし高齢者会食会の様子

一人暮らし等高齢者の状況、地域特性等を踏まえ、地域での取組の支援に加え、各局事業での取組や、多様な主体との連携も含め、身近な地域における見守り・支え合いの取組を進める。

子育てを応援する環境づくり

(こども未来局)



地域子育て支援センターの様子

地域の中で親子が気軽に立ち寄り、保護者同士の交流や子育ての不安や悩みを気軽に相談できる場など、地域全体で子育てを応援する環境づくりを進める。

多様な主体との連携

(健康福祉局)



移動販売と連携したつながりづくり

予防や社会参加につながる取組、つながりづくりの取組、日常生活での支えとなる生活援助やちょっとした困りごとへの取組など、福祉分野に限らず多様な分野と連携した取組を進める。

ケアイノベーションの推進

(経済労働局)



ウェルテック

ウェルテックを軸に高齢者・障害児者等の当事者、支援者、専門職との共創による新製品・サービス等の開発、普及活用促進支援を行い、産業面から地域包括ケアシステムを支えるケアイノベーションの取組を進める。

【視点4】多職種が連携した一体的なケアの提供による、自立した生活と尊厳の保持の実現

取組の考え方

85歳以上の人口が増加し、医療・介護、住まいなど多様化・複雑化する支援ニーズを抱える方の急増が見込まれる中、**相談支援**、**初期集中支援**、**在宅療養**や、本人の**意思決定支援**や**権利擁護**といった地域で暮らし続けることを支える取組を進めます。

主な取組

高齢化に対応した相談支援

(健康福祉局)



地域包括支援センターへの相談啓発

多様化・複雑化する支援ニーズに対応するため、地域包括支援センターの相談体制・機能の充実、地域ケア会議等による関係機関の連携強化、区役所等での総合的相談支援や権利擁護の取組を進める。

意思決定支援・権利擁護

(健康福祉局)



成年後見制度シンポジウム

高齢者を中心として単身世帯等の急増が見込まれる中、身寄りのない人も含め判断能力が不十分な方の地域生活を支える取組を、既存の各施策や国や民間事業者の動向を踏まえながら進める。

初期集中支援

(健康福祉局)



健幸UP!!プログラム・あんしん暮らしサポート

医療介護の専門職種が連携し、介護予防・重度化防止支援、認知症初期集中支援、入退院時支援を包括的かつ集中的に実施することにより、住み慣れた地域で暮らし続けるための支援を進める。

在宅療養

(健康福祉局)



医療介護連携WGの様子

本人の暮らしの情報を把握・共有する仕組み、病院間の連携による退院支援やレスパイト、介護施設・事業所における医療対応・連携等を充実し、本人の意思や希望を尊重した在宅療養を進める。

【視点5】地域全体における目標の共有と地域包括ケアをマネジメントする仕組みの構築

取組の考え方

住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、予防・自立支援やつながりづくり、多様な主体との連携の視点を取り入れながら、**必要な地域資源を増やしていく**ため、**地域住民・関係者等との対話を重ねながら皆で地域を創りあげていく**取組と実践を積み重ねていきます。

主な取組

小地域での地域づくり

(健康福祉局)



地ケアつながりプロジェクト～ TeamSUGE～での意見交換の様子

住み慣れた地域で暮らし続けるために必要な地域資源を見つけ、探し、必要に応じて創り出すため、地域住民や地域団体を中心に、多様な主体との連携も含めた対話による地域づくりを進める。

地域福祉計画

(健康福祉局)



第7期川崎市地域福祉計画

地域包括ケアシステム推進ビジョンの視点と合わせた基本目標を定め、地域生活課題の解決に向けて住民の視点から地域福祉を推進していくため、市単位、区単位で計画的に取組を進める。

地域情報の見える化

(健康福祉局)



地区カルテ

身近な地域ごとの人口等の統計情報、特徴、地域活動情報とをまとめた地区カルテを地域住民や関係機関・団体との対話の場において活用し、暮らしに必要な地域資源の発見・探索・創出につなげる。

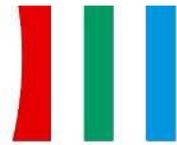
地ケアの様々な取組の広報

(健康福祉局)



地ケアポータルサイト

地域での予防やつながりづくりに関する取組、民間活用を含む多様な主体との連携などの具体的な取組を取材し、各主体の想いや実現したい未来などを取材し、ポータルサイトにて発信する。



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市